

天神訓之曰宜取天香山中土造平瓮八十枚并造嚴瓮而敬祭天神地祇亦爲嚴呪咀如此則虜自平伏云云此神武東征之時也國初有如是事然則津輕之瓮其此類之遺也與

〔倭名類聚抄十六〕瓦器 魁 本朝式云、魁所出未詳、辨色立成日本紀私記誤云淺甕和名

〔東雅十一器用〕甄ミカ 魁サラク 倭名鈔に本朝式を引て、甄はミカ、魁はサラク、今按するに、魁字所

出未詳、辨色立成には大甕をミカと云ひ、淺甕をサラクといふと注せり、中サラクとはサラは

淺也、淺をアサといふ、アは發語の詞也、古語にサと云ひしは、細ケはカといふ語の轉せし也、瓦器

にして淺きをいひし也、魁の字の如きは所出未詳、我國之俗創造れる所なるも知るべからず、

〔延喜式二十四主計〕凡左右京五畿内國調、一丁輸錢隨時増減、其畿内輸雜物者、中陶器、中二丁魁一

口、受一石二斗、略

凡諸國輸調、中陶器、中一丁魁二口、受一石五斗、略

〔延喜式三十六主殿〕供奉年料、中宮准此、略

魁三口

〔延喜式三十九內膳〕年料、中略

魁十一口、汲水、運料

〔日本書紀十五顯宗〕白髮天皇、清二年十一月、播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯於赤石郡親辨新

嘗供物、一云巡行郡縣、收歛田租也、適會縮見屯倉首縱賞新室以夜繼晝、中億計王、仁起儼既了、天皇次起自

整衣帶爲室壽日、中出雲者新墾、新墾之十握稻之穗、於淺甕釀酒美飲、略哉、中下

〔法隆寺伽藍緣起并流記資財帳〕魁壹佰口、一口徑一尺八寸、深三尺四寸、一口徑一尺九寸、深三尺三寸、略、下略

〔新撰字鏡五〕甄口結反、入、瓦器也、螢於耕反、平、種縛隨、三字毛太比

〔倭名類聚抄十六〕瓦器 魁 揚雄方言云、自關而東、謂之甕、鳥反、字亦作、名毛太比、莖